

科学と良心

神学部 教授・良心学研究センター長 小原克博

1

Overview

1. なぜ科学にリベラルアーツや良心の視点が必要なのか
2. 「良心」概念の系譜
3. 同志社と自然科学
4. 科学と良心の接点
5. 今回の課題

2

1

なぜ科学に リベラルアーツや良心の 視点が必要なのか

3

歴史から学ぶ

湯川秀樹は、なぜ軍事研究に関わり、戦後、平和運動を牽引することになったのか。

【参考】小沼通二『湯川秀樹の戦争と平和——ノーベル賞科学者が遺した希望』岩波ブックレット、2020年。



4

科学者の使命（戦前）

今日の科学者の最も大いなる責務が、既存の科学技術の成果を出来るだけ早く、**戦力の増強**に活用することにあるのは言を俟たない。併しその反面に於いて科学の真の根基を**わが国土に培養**するのでなければ応用さ [れ] るべき科学、技術の源泉は久しからずして枯渇するを免れない。

「科学者の使命」、『京都新聞』1943年

5

科学（者）の役割（戦後）

- 国家目的乃至はそれを実現するために取られる手段が正当化されるには、少なくともそれ等が**人類全体の福祉の増進**と背馳しないことが必要である。「静かに思ふ」、『週刊朝日』1945年11月4日
- 今まで多くの理科系統の学者に接してきた私の偽らざる気持ちは、**個々の専門を離れて大きな立場から**——しかも学者としての公平さと正確さを以て——自然や人事を論じ得る人は余りに寥々たることであった。
- 真理の探究に精進する人には、自己の研究を通して**自然や人事の百般を見る目**が開けてくる筈だ。「科学日本の再建」、『科学朝日』1945年10月

6

2

「良心」概念の系譜

7

西洋における「良心」

- conscience ← conscientia（コンスキエンティア、ラテン語）
= con（共に）+ scire（知る）
- その元になるのは συνείδησις（シュネイデーシス、ギリシア語）
= συν（共に）+ εἶδω（知る、考える）
- （参考）ドイツ語 Gewissen = ge（共に）+ wissen（知る）

8

誰と「共に知る」のか？

- ・ 自己の内面的な対話（内なる他者との対話）【個人的良心】
- ・ 他者と「共に知る」 【社会的良心】
- ・ 神と「共に知る」 【信仰的良心】

9

日本における「良心」

- ・ conscience の訳語として「良心」が最初に用いられたのは、ブリッジマン・カルバートソン訳『新約聖書』（1863年）において、『孟子』から取られた。（『角川 新字源』）
- ・ 孟子は性善説を唱えた。日本語の「良心」も、こうした儒教思想の影響を受けている。
- ・ 福沢諭吉は『学問のすすめ』（1872-76年）の中で conscience を「至誠の本心」と訳した。
- ・ 「良心」の思想史的広がりを視野に入れるためには、「良」を一度取り除き、「共に知る」に起因する緊張関係を理解すべき。



10

現代における「良心」

- ・ 自分自身を深く振り返り、「個」の強度を高める「良心」
（内に向かう良心、個人的良心）
- ・ 共同感覚としての「良心」 （外に向かう良心、社会的良心）
- ・ 国家主導の「道德教育」と一線を画する「良心教育」
（良心の越境的・対話的次元）
- ・ 地域・世代を超えた「共に知る」ことの実践（良心の共同体）

11



12

新島襄と自然科学

- ・ 日本人として初めて新島が取得した学位は Bachelor of Science
- ・ アーモスト大学では地質学をはじめ自然科学系の授業が充実していた。
- ・ 1878年、新島は進化論生物学者ギュリックを招き、進化論を講義させる。
- ・ 1887年、同志社病院と京都看病婦学校を設立。アメリカン・ボードは医師のベリー (J.C.Berry) と看護婦のリチャーズ (L.Richards) を同志社に派遣。
- ・ 1890年7月、ハリス理化学校が設立。理工学部の前身。
- ・ 理工学部の教育理念「人間のための科学技術」

13

「科学」とは

- ・ 1880年代初頭、西^{あまね}周が science に「科学」という訳語を与えた。「分科の学」（ばらばらに分かれている学問）という意味。当時の日本では専門分化した西洋の諸学 (discipline) が新鮮であった。(隠岐さや香『文系と理系はなぜ分かれたのか』97-99頁)
- ・ science ← (ラテン語) scientia (スキエンティア) 「知ること」
- ・ con-science : 共にサイエンスすること (良心と科学の一体不可分性)

14

4

科学と良心の接点

15

良心学

「統合知」としての良心

- ・ 「良心」に隣接する諸概念 (道徳、倫理、意識、認知能力、共感、利他性、対話など) を用いながら、幅広く人間の精神と行動を研究する。
- ・ 「共に知る」ことを原義とする良心の現代的機能は、細分化した多様な学問領域を「接着剤」のようにつなぎ合わせる「統合知」。

「実践知」としての良心

- ・ 新たな価値を広げ、社会に影響を与えていくためには、コミュニケーション能力やリーダーシップといった「実践知」が必要。

16

科学者の良心

- ・ 良心に基づく行為はすべて許されるのか？
- ・ 良心のパラドクス——「よかれ」と思ってやったことが、結果として大きな「悪」につながることもある。
- ・ 安住する良心、自己正当化する良心の危うさ（→社会的良心の必要性）
- ・ 例：原爆の開発（マンハッタン計画）、人体実験、人種優性政策、旧優生保護法（1948～1996年）のもとでの障がい者の強制不妊手術（日本）

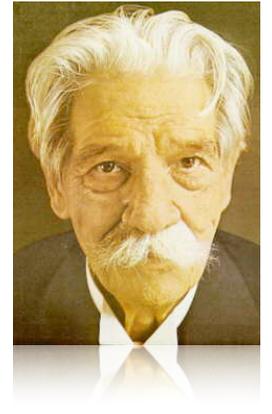
17

良心の葛藤と良心の育成

アルベルト・シュヴァイツァー

「断じて鈍感にされてはならない。われわれが（倫理的）葛藤をいよいよ深く体験するならば、われわれは真理のなかにある。**疚^{やま}しくない良心などは、悪魔の発明である。**」

（『文化と倫理』（著作集第七巻）322頁）



18

スキエンティアとコンスキエンティア

- ・ 「共に知る」範囲を狭く設定することによって、科学はその専門性を増すことができる。しかし同時に、自らに都合よく「共に知る」範囲を限定することにより、科学が社会的弱者や「非生産的」人間を排除してきた歴史的教訓から学び続ける必要がある。
- ・ コンスキエンティアと関係づけられることにより、スキエンティア（サイエンス）の特性がより明確になり、雑多な他者（弱者）を切り捨てることによって成り立つ精緻さ、純粋さ、優越性への誘惑に抗する力を得ることになる。

19

5 今回の課題（1200字以内）

- ・ 「科学と良心は何か関係があるのですか」と問われたとき、あなたはどのように答えることができますか。今回学んだ内容を踏まえて、あなたの回答を述べて下さい。
- ・ 『良心から科学を考える』第1章「科学と良心の接点」を読み、印象に残った箇所を、その理由と共に説明して下さい。

20